

平成30年度 第2回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成30年12月17日（月）午後3時30分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員

＜事務局＞

18人

傍聴者：0人

1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・平成30年度第2回目の総合教育会議になる。新年度の国の予算規模は100兆円を超えることになるということで、いよいよ今日から財務大臣を中心に各部折衝に入っていく模様。
- ・その中の1つである幼児教育、幼児保育の無償化の問題は、我々全国の基礎自治体にとっては、実は由々しき問題である。保護者からすると無償になることほどありがたいことはないですが、無償化の財源が、全体的に8,000億円必要だと言われている。それを誰が負担するのかというところで、国と地方が最近まで綱引きをしていた。待機児童の問題等々含めて、まだまだやらなければいけない仕事が基礎自治体にはあり、地方で負担しなければならないというのは約束が違うのに、地方財源措置、地方交付税で面倒見るのでということで押し切られるかたちで収まりを置くことになった。
- ・幼児保育の無償化では、ベビーシッターに頼むことも無償になる。3～5歳は無償、0～2歳は所得制限がつくという状況であるため、それに期待している方がいかに手を挙げてこられるか、そのためにまた待機児童が出てくることも考えられる。そうならないように教育委員会では、幼稚園の3年保育も視野に入れながら検討いただき、また幼稚園型の認定こども園に移行する時期も遠くない将来に来ると思う。
- ・12月議会の開会中であるが、駅前図書館における1億2千万円の備品購入の予算をお願いしている。議会からもなぜそのようなお金が必要なのかご指摘があるが、今使用しているものを剥がして、新しいところにまた設置する費用を考えると、新しいものでもそれほど変わらないのではないかというのが私どもの主張。建設費併せて2億5千万円かかりますが、その内の90%を借金で賄うことになっている。さらにその借金の半分は先ほども申し上げた地方交付税で国がみてくれることになるので、45%は国が、我々は55%を負担するだけで2億5千万円の工事が出来る。こういう仕組みに則って、同じ税金でも国の税金をできるだけ使うようにして、図書館を新しくしようと取り組んでいるところ。
- ・本日は、特に平成31年度の教育日本一予算について、教育委員さんとしての具体的なご意見をお聞かせいただければと思っている。短い時間ではあるが、充分なご意見を頂戴いたしますようお願い申し上げます。冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

2. 議事

・平成31年度教育日本一予算について

○事務局から説明。

- ・まず、資料「教育日本一に向けた市長特命予算事業（平成28～30年度）」については、平成28年度5千万円からスタートし、29年度はさらに5千万円、本年度もさらに6千万円、総額1億6千万円で現在取り組んでいる事業の一覧である。来年度もさらに増額いただけるということであり、教育委員さんの提案枠の約2千万円を含めて、来年度の新規拡充事業で総額52,674,131円を計上している。
- ・英語教育推進事業では、英語専科教員配置事業が、本年度に引き続き教育委員さんからの提案枠の事業であり、本年度5校に1名ずつ計5名を配置した英語専科教員を拡充し、全小学校への配置が完了する。また体験型英語教育は、3・4年生を対象に吹田のエキスポシティにある「大阪イングリッシュビレッジ」で行う校外学習の事業であり、これまでの小学校の英語学習については、はばたきイングリッシュやイングリッシュキャンプ等、これまでは高学年を対象にした事業を行ってきたので、中学年でも学習する機会を考えた。
- ・幼児教育サポート事業については、教育委員会では2020年から幼稚園の3年保育を目指しており、その準備段階として、現在月1、2回程度実施しているプレ保育を来年度は、さくら、あおぞらの両園で毎週3回、母子分離で実施したいと考えている。
- ・ICT教育推進事業では、情報機器整備事業は小・中学校に教員の指導用タブレットを導入したいと考えている。ご承知のとおり、これまでの事業の中で、各クラスに電子黒板を導入しているが、授業でより効果的に活用していくために、iPad端末を教員全員に1台ずつ配備したいと考えている。学校ホームページ更新事業については、各学校の取り組みを幅広く発信し、アピールできるように考えた。本年度、「いけだの教育がわかる本」というパンフレットを教育委員会で作成し、また市の広報誌でも各学校順に紹介いただいているところだが、学校自身でももっと自校の特色ある取り組みや子どもたちの活躍をPRできるようにと考えている。
- ・特色づくり推進事業では、新たに4つの事業を考えている。1つ目は、これまでも提案してきたが、来年度で総額2億円以上に上る教育日本一事業を検証する会議の設置である。今後検証していく事業、方向転換していく事業、見直す事業、廃止する事業等シビアに検討していただきたく会議を組織するもの。2つ目は、在日外国人児童生徒支援事業で、年々増加し、今回の改正入管法等で今後ますますの増加が見込まれる在日外国人児童・生徒に対して、日本語の指導をはじめとするさまざまな支援を行う事業である。3つ目の体力向上推進事業と4つ目の音楽教育推進事業についても、これまで学力向上のためにはばたき塾等の取り組みを推し進めてきたが、学力のみならず、体力、運動能力や情操教育にも力を入れていくような教育日本一事業を考えた。具体的には、外部人材を活用し、児童・生徒が専門的な指導を受け、普段出来ないような体験ができるような機会を設けたいと考えている。
- ・新図書館設置事業では、来年5月にオープンするサンシティの新図書館において、市民の課題解決のための最新の情報をネットワーク環境を用いて電子で提供するサービス機能を配備するものである。

<市長>

- ・教育委員さんの提案枠2千万円が昨年度に引き続き、小学校の英語専科教員配置に使わせていただくことを含めて、52,674,131円のご提案をいただきましたので、早速委員の先生方からご意見をお伺いしたい。

<委員>

- ・さらに5校に対して英語専科の先生が配置されるということは、大変良く、子どもたちにとってもやる気がでることにつながる。今回の提案で全ての小学校に専科の先生が配置されたことを大変嬉しく思う。池田の子どもたちがワークブックテストだけでなく、スピーキングも堂々と受けられるようになっているので、全小学校で英会話に優れた子どもたちが育つことを期待している。

<委員>

- ・当初平成32年度の予算の中でとの話であったが、平成31年度に拡充していただいたので、非常に充実した事業になると考えている。
- ・OST（オンライン英語トレーニング）については、ほそごう学園以外の4つの中学校に拡充いただいた。ネイティブと会話し、異文化に触れることができ、会話の中で理解しようとして、その場で工夫することが出来るようになると考えている。コミュニケーションが取れるという経験が自信になり、少ない単語でも気後れしないで向かうことにつながっていくのではないかと思う。今は1回程度の授業であると思うが、回数が増えることによって学習効果がさらに表れるのではないかと思うので、回数を増やすことを今後検討いただきたい。

<委員>

- ・まず英語教育について、この1年間で5人の先生方が先行して専科教員の経験を積んでいることと思う。平成31年度は新たに5人の英語専科教員が増えるので、ぜひ5人の先生方と情報共有をいただき、生徒たちにメリットが出るようにしていただきたい。
- ・個人的にもオンラインの英語は非常に重要であると思っている。海外出張が減ると急速に英語の能力が落ちていると感じるので、子どもたちにはいろいろな機会を作り、ネイティブあるいは英語でしゃべる機会を持つことは、英語能力を伸ばす上で重要なポイントである。
- ・幼児教育については、市長からもご意見がありましたが、3年保育がなぜ必要かというポイントを少しまとめていただいているので、ぜひ小学校に入る前の教育のグランドデザインというようなものをしっかり持って、なぜ3歳児教育が充実した方がいいのかということをしつかり前に出していただきたい。
- ・ICT活用については、我々もいろいろな場面で、特にコミュニケーション、プレゼンテーションの際にはICT機器をフルに活用して、最近ですと動画なども使いながら、伝えたいことを上手く伝えていくスキルがないと仕事ができない状況。先生方が利用することで、生徒たちにも広まっていくことが非常に重要である。ただし、一つ痛い経験を申し上げると社内ネットワークに外部から侵入をされた経験があり、非常に痛手を被りました。幸い内部情報が漏れるようなことはありませんでしたが、外部の組織に迷惑をかけ、大変な作業が発生したことがある。利便性と安全性のバランスを良く取っていただきたい。

- ・テレビ等でも報道されているが、在日外国人の増加も非常に重要な課題だと思う。外国から来た子どもたちが孤立したり、何人か特定の集団を作ってしまったりと悲しいことになったりするので、提案のような事業で日本語をしっかりと教えてあげることが、今後非常に重要になってくる。
- ・新図書館については楽しみにしているところであるが、図書館としての機能だけでなく、池田駅前図書館を中心とする文化的なネットワーク、例えば公民館、公園、商工会議所は近くのエリアにあるので、それぞれの活動が連携できるような活動が広がれば面白いと感じている。

<委員>

- ・「いけだの教育がわかる本」は特命事業の中身がわかりやすく広報されていたと思う。予算をたくさん使い、また中身が変わってきているものもあるので、もっと広報して良いと考えている。
- ・検証事業については、数値で測りにくい事業が多いので、評価が難しいと思うが、適任の委員の方を選んでいただいて評価していただきたい。成長が目に見えて出てきていないものもあるので、評価が非常に難しいところではあるが、工夫して評価いただき、効果が薄いものはやめることも考えていかないといけない時期に達していると思う。
- ・幼児教育については、平成30年度も大幅に増加いただいているが、やはり子どもの教育の中で、今回の学力テストのA、B問題のように基礎と応用の両方ができないといけない。小学校に入る段階で、ある程度の読み書き、算数、それなりの社会性なり、学ぶ姿勢なりを身につけてもらうことが非常に重要である。平成31年度はプレ保育の拡充ということになっているが、今後3年保育を行うのであれば、幼児教育にも注力していただきたい。

<委員>

- ・ICT活用において、タブレットの使い方が大変問題で、先ほど他の委員もおっしゃったが、情報の漏れのリスクがある。また、働き方改革等の面でタブレットを自宅に持ち帰っていいのか、学校内に限るか、その辺りも現場の先生方の意見も聞いて、討論された方がいい。線引きはしっかりしていただきたい。

<委員>

- ・図書館の件について、無くなってしまうことに皆さんとても敏感になると思うが、新図書館のシステムであったり、快適で使いやすい空間であることに着目していただきたいと思うので、その辺りを先に周知できればいいのかなと思う。

<教育長>

- ・教育委員さんの提案枠ということで、英語専科教員配置事業については来年度全小学校に英語専科の教員がいるということになる。またこれらの教員がお互いに交流したり、中学校の英語の教科担当と交流したりすることで、一層小学校の英語力を推進していきたい。これは他市にも例のない、非常に特色のある形だと思うので、事務局としても是非とも推進し、また発信していきたいと考えている。

- ・ICT活用については、セキュリティの部分で、委員さんからもご指摘がありました。電子黒板を平成29年度に導入し始めて、現在学校の授業では、電子黒板が非常に活用されています。先生方がこの電子黒板をより効果的に、より視覚的に活用いただくためのタブレットですが、ご指摘の点も十分に踏まえて、運用規定等はしっかりと設定をして、先生方にも指導をしていかないといけない。利便性と安全性のバランスは非常に重要と思っている。
- ・外国人の子どもたちへの支援については、グローバル化ということが叫ばれて久しいが、今年度は、生徒のご家族から学校の中でお祈りを要望されたケースも実際にある。本当に顕在化してきており、国の入管法改正等いろいろあるが、これまで以上に外国人の子どもたちへの日本語指導を中心としたサポート体制を整備する。
- ・提案させていただいた事業について、精一杯事務局として推進していきたい。

<市長>

- ・ある地域コミュニティ推進協議会の代表者と話をしていた際に、池田というのはスーパーマーケットみたいなまちとおっしゃっていました。どういう意味かと尋ねたところ、「何でもある、しかし何もない。取り立てて何もない」と。やはり「これ」というものをしっかりPRできていないのかなと感じた。教育も来年度で2億円を超えるが、あれもこれも予算をつけて、いろいろあるけど何も残らないというようなことがないようにしないといけない。やはり1つ1つ、特に教育の場合は、英語教育に特色を出して頑張っていた。
- ・小学校の英語専科の先生方が各学校で1名ずつとなるが、そこで気をつけないといけないのは、その先生に英語を任せきりになるということ。小学校に英語がおりてくるとなり、必死で勉強していたものが、専科教員に頼ってしまうようなことがないように注意が必要。
- ・委員から質問のあったOSTの拡充についてはどうか。

<事務局>

- ・OSTの現在の効果については、ほそごう学園の7年生（中学1年生）の子どもたちへのアンケート結果を見ると、9割の生徒がOSTの英語学習は役立つと回答している。「英会話を楽しむことができたか」というアンケートでは、1回目の後のアンケート結果では54%、5回目の後では84%が楽しかったと答えており、30%増えている。「あなたの言いたいことは伝わったか」という質問では、同じく58%から84%となり、30%ほど増えている。委員の皆さんがおっしゃるように回数を重ねるほど効果があるものだ子どもたちも実感している。是非回数を増やしていければと思っているが、1つ課題は学校に1つのパソコンルームを使うので、クラスが多い学校は取り合いになる。パソコンルームは、技術教材で使ったり、調べ学習で使うこともあるので、1つの教室で取り合いになるとなかなか上手く進まないところもある。その辺りを上手くタブレットを使って、パソコンルームではなくて教室でOSTができるような環境にする等、工夫をして、回数を増やしていきたいと思っている。

<市長>

- ・GTECの効果についてはどうか。

<事務局>

- ・GTECについては、今年度で2回目の実施となりますが、現在小学校で実施しており、来年1月には中学校で実施する予定。また経年での結果が3月頃に出るので、1回目と2回目を比較していきたい。全国で中学卒業時に英検3級を持っている子どもたちが40%に対し、池田の子どもたちの英検3級取得と同程度の力を持っている生徒は64～65%と把握している。

<市長>

- ・大学入試でも体系が変わってきており、英語の4要素である読む、聞く、書く、話すということを中心に学んでくれていることは非常に良いことである。
- ・昔、当時の教育長が池田の子どもたちは中学校を卒業するときに自分の学校のこと、自分のまちのことの自己紹介ができるくらいの英語能力を持ってほしいとおっしゃっていたが、それにほぼ近づいてきている。大変ありがたいことだと思っている。
- ・委員からのお話にもあったが、就学前教育というもののグランドデザイン、到達目標のようなものはどう考えているか。池田の公立幼稚園を出た子はここまでできるということも大事だが、やはり私立の幼稚園も大事、保育所に通っている子どもたちも大事。どこに通っていても池田の5歳の子どもに変わりはない。この辺りのサポートをどのように考えているか。

<事務局>

- ・幼児教育については、さくら幼稚園、ひかり幼稚園、あおぞら幼稚園で2年保育に関わる幼児教育の教育課程というところでカリキュラムをしながら丁寧に子どもたちを見ていただいている。ただ、4歳児段階での学びが不足というところで、現場の先生方、園長先生も含めて非常に意見が出ている。幼児期の育ててほしい具体的な姿ということで、今回具体的に10の子どもたちの姿が幼稚園の教育要領にも提示がされた。そこに向けて、いろいろな形でアプローチをして、先生方が丁寧に子どもたちを見守っていくことで、小学校の教育にもつながっていくという考えが、3歳の子どもたちの安全かつ丁寧に育てるということになると考えている。

<市長>

- ・タブレットを全教員が持つというところまで進んできました。他の地域では、子どもたち全員がタブレットを持っているところまでいっている学校もあるようです。そういう意味ではOSTの拡充については、パソコンルームをもう1つ作るのか、それとも子どもたちにタブレットをある程度持たせて、教室で行うという次の時代を迎えるのか、と思っている。委員の先生のおっしゃった働き方改革の問題、あるいはセキュリティの問題では、運用規定を設定して行っていく、と教育長から説明がありましたが、事務局はいかがでしょうか。

<事務局>

- ・先生方に導入するタブレットのiPadは操作が容易ですので、ICT機器を使っていき、また全職員に導入するという一方で、お互いに聞きながら、広がっていくと考えている。子どもたちには、現在、各小学校で20台ずつ、各中学校で40台ずつタブレット型PCが入

っていますが、そこの拡充も考えながら、検討していく必要があると考えている。

- ・セキュリティについては、モバイルデバイスマネージャーで管理ができ、規制をどこまで行うのか、インターネット通信を通信キットだけにするのか、家のWi-Fi環境にも対応出来るようにするのか、先生方の声とセキュリティなどを考え、また他市の運用等も参考にしながら、本市の運用マニュアルを作っていく必要があると考えている。

<教育長>

- ・補足ですが、各学校のタブレットはPC教室に置いてある分です。先程から安全性の話も出ておりますが、PC教室の機器というのは、学校教育のネットワークのみで制限がかかっています。今回、先生方に持っていただくタブレットはその制限とは別のものになりますので、運用をどうしていくかということが課題になっている。

<市長>

- ・問題は2つでして、1つはモバイルデバイスマネージャー、これによってある程度セキュリティが守れると説明がありましたが、どのような働きをするのか。

<事務局>

- ・委託契約になるが、OSのバージョンアップをその都度していただいたり、教育アプリのインストールをお願いしたり、Wi-Fiの設定、パスワード等の設定も管理いただける。学校の先生方がむやみにいろいろ設定できない環境を考えている。

<市長>

- ・今説明にあったセキュリティで、勝手にパスワード設定もできないので、ある程度は守れるということか。

<事務局>

- ・はい。先生方に、運用をマニュアル等でしっかり伝えていって、セキュリティを担保したいと考えている。

<市長>

- ・何の情報を入れるかによって、単に名刺交換等の連携情報と先程委員の先生がおっしゃったように生徒の成績まで入れ込むのとで変わってくるし、そういう意味では運用マニュアルがいるということ。
- ・いくら素晴らしいファイヤーウォールができて、それを破ってくるという、いたちごっこみたいなところはあるので、セキュリティは重々注意してもらうのと、働き方改革ということで、先生方の負荷がこれ以上にかからないようにしてほしい。これによって子どもたちにも教え易くなったし、自分も楽になったなと思ってもらえることが大事だと思う。
- ・池田の小学校は全部20人クラスではないので、仮に小学校を40台にしたら、全校で200台増えるということ。特に小学生の方がより初歩的なことを行うと思いますから、もうちょっと頑張って予算提案してほしい。やるときは本当にスカッといかないと、効果も徐々に

上がってくるのじゃなくて、その学年はその1年で終わりなので、そういうようなご配慮いただけたらありがたい。

- ・それから「いけだの教育がわかる本」の予算が525,000円ですから、今年もできるのではないかと。やっぱり池田市が2億円投入してきた、平成31年度にはおそらく2億2千万円を投入することになると思うので、それぐらい投入してここまで教育のレベルアップと、先程話のあった幼児教育のグランドデザインというような、やはり日本一を目指す池田市教育委員会が描くグランドデザイン、というものを示していく必要がある。科学、技術、社会、体育、音楽についても書いていただくとか、もう一回作っても良い。検証する為の材料でもあり、PRの材料でもあるというようなものも考えても良い。
- ・折角6,000万円まで枠があるのに、なぜ5,200万円で止めるのかと副市長も思っていると思いますので、今の小学校の20台が何台までできるか、そういうことも含めて、事務局にはご検討いただきたい。委員の先生方の要望でもありますので、よろしく願います。

<委員>

- ・毎年教育の予算を増額していただいて感謝している。今、市長がおっしゃったようにPRというのは非常に大事。池田は子育てと教育に力を入れているから池田に住もうかと言ってくれというのが一番大事だと思う。私は、幼児教育も大事だと思っているので、力を入れていただきたい。あと心配なのは、検証次第でどのような結果が出てくるか。その部分を受け止めながら、スクラップアンドビルドで入れ替えをしていかないといけないと思う。

<委員>

- ・私も検証は気にかかっている。何もネガティブなことではなく、良い結果が出ればPRにつながる。凄い説得力のあるPRネタというのも検証の中から生まれてくるものだと思うので、決して悪いことばかり探すのではなく、良いところを見つけ出すことにもつながると思うので、是非一緒に考えていきたい。

<委員>

- ・いろいろ充実して考えていただいている。何をするにもやはり日本で学ぶわけですから、日本語の教育をしっかりできるに越したことはない。まず、数学においても英語においても文章を理解するという点に関しては国語の教育、言語の習得が大事。それがさらに他のところにも波及して、伸ばしていくのではないかと考えているのでよろしくお願いいたします。

<委員>

- ・来年度から幼児教育の無償化に向けて、市が苦勞されていることは知らなかった。それに向けて、費用も大変かかるようですが、当初池田の幼稚園というのは、5歳児だけで始まったそうですが、これから3歳、4歳、5歳と3年間にわたる幼児教育が始まる。一貫した3年間の教育に対して、期待するのも大きい。去年から就学前に力を入れておられ、3年間保育にも力を入れていただきたいと思う。

<市長>

- ・改めて、先生方からお伺いを受けて、やはり一つはPRが下手だということ。池田市の教育はこれですよ、という芯を捉えたものをきっちり発信していく。発信は現実に学校に通っている親御さんたちに対してもそうですが、日本国中に池田の教育を示して、その教育が受け

たいから池田に引っ越してきたいと思ってもらえるような教育日本一のまちをめざす思いを発信する。

- ・英語だけではなく、やはり日本語できっちり話ができる子に育てていく。自分の主張は英語もそうですが、日本語でまずは自分の思っていることをきちっと相手に伝える、相手の言うことをしっかり聞くことができる、そういうことによっていじめっ子がなくなる、いじめられっ子がなくなる。きちっとお互いを理解できる子どもが育っていく。そして、進んでいるものはより進む、遅れている子どもたちを底上げできる。こんな夢みたいな話ですが、やはり教育の現場というのはそんな夢をめざしていかないといけない。ほったらかしにするのは教育ではないし、伸びる子を伸ばさないのも教育ではない。
- ・非常に難しい現場ですから、ICT機器を使いながら頑張っていただいたらありがたいと思うし、三つ子の魂百までと言われますが、やはり幼児教育の大切さというものを原点に見据えながらやっていく。そうすると池田っていうまちはすばらしいまちだと全国に発信できると思う。そういう意味で来年の検証作業というのは大変なことになる。英語はよく頑張っているけど、数学はどうなのか、国語、日本語、道徳教育についてもあらゆる検証が行われる。2億2千万円の予算は平成32年度も2億2千万円でいくのかどうかの検証作業ですが、2億2千万円では足りないので2億5千万円までいこうとするのか、あるいは池田市の財政状況をみながら2億でいくのか、そのためにはこの2千万円は何をカットするのか。そういうふうに建設的な検証作業を来年していただけたらいいと思う。最後に教育長にまとめていただいて終わりたいと思う。

<教育長>

- ・どうもありがとうございます。検証作業の話が出ましたけれども、しっかりと成果と課題を検証していかないといけないなと思っている。また委員の先生も言われたように、成果も必ずきちっとエビデンスとして、しっかりと検証して、発信していきたい。平成28年度から市長には予算の後押しをいただいておりますので、取り組んでいることを本当に池田の子どもたちに還元出来るように事務局としてもしっかりと取り組んでいきたい。これからもよろしくをお願いします。

<市長>

- ・ありがとうございました。学校のHPも柔軟に発信したり、変更したり、追加できるというふうにされていくと思う。これもペッパー君と同じようにさわさりながら誰がやるのかが問題になる。教頭先生が一生懸命そればかりやっている、本来教頭の仕事が出来なくて、教頭先生がまたしんどい思いをする。なので、その辺は事務局がするのか、あるいはアドバイザーを活用して、そういったお仕事を手伝ってくれるサポーターがまわりにいるとするのか。「またややこしい、しんどい仕事がふって来た」と思うのではなくて学校をPRできるこんな良いツールを提供していただいたとだけのことの方が大事ですからその辺もご検討いただけたらと思う。本当に各小学校20台を各学校40台にあるいは学校によって違うので38台でよいと、そういうふうに検討いただきたい。「いけだの教育のわかる本」を来年度も同じ部数を配布すると、いくら予算になるのか。もう一回スクラップアンドビルドで精査をいただいて、できれば6千万円にまとめていただいて、来年の提案の前後に、もう一度総合教育会議でご報告をいただくということが良いかなと思っている。最後にご報告をしたと思うが、学校給食センターの問題はまだ渦中で、2次補正のメニューの中に学校給食センターが入るかどうかが山場である。補正予算に乗ると乗らないのとできさほど申し上げた学校最適化債と同様、補正予算債の充当率と交付税充当率が非常に高いので、当

初予算よりも補正予算で獲得できるように努めたい。
それでは、総合教育会議はこれで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

3. 閉会